

発達に心配のある子どもへの支援

平成29年に福祉の村で開所を予定している「こども発達センター」の整備工事が始まりました。発達障がいには生まれつきのもので、コミュニケーションや対人関係をつくるのが苦手なため、幼稚園や小学校に入ると様々な問題に直面し、不登校やひきこもりなどの二次障がいにつながる場合もあります。

市長室より

Next!
岡崎
次の新しい おかざき



岡崎市長
内田 康宏

す。しかし、早い時期から発達段階に応じ、一貫した支援を行うことで、多くの場合、社会に適応して自立できるようになります。本市でも年間4千人余りの新生児のうち、1歳6カ月児健診で800人程度の子どもに対し、発達に気になる点が見受けられるそうです。こども発達センターでは、発達に心配のある子どもをできるだけ早く発見し、医師や臨床心理士などの専門スタッフが、相談、医療、療育を総合的に提供することで、子どもや家族の直面する困難を減らす効果が期待されています。今後は更に、老朽化が著しい福祉の村の既存施設についても順次改修を行い、整備を進めていきます。

福祉や保健、医療は、皆さんの生活に特に密接に関わるものであり、こうした基本施策の充実にもしっかりと取り組んでまいります。